



耕心 ~夢追いかけて~

佐世保市立吉井中学校
学校だより 第54号
文責 校長 川口 貴晴
令和3年3月24日(水)発行

【学校教育目標】自ら生きる力を培う生徒の育成

【めざす学校像】生徒一人ひとりの夢と志を育む学校

【一徳運動】「みそあじ運動(みなり・そうじ・あいさつ・じかん)」



中



最後にちょっといい話



「おはようおじさん」(氏田裕也著)

これは今から30年ほど前の、平戸市津吉町での話です。昭和50年、この町に「電報電話局」が開設されおじさんは初代局長としてここに赴任しました。おじさんの名前は角田実(つのだみのる)さんといいます。

赴任して間もない日の朝、おじさんが局の前に立っていると名前も知らない子どもの「おはようございます」と、とても元気な朝のあいさつが耳に飛び込んできました。おじさんは、びっくりしながらも負けずに元気よく「おはよう」とあいさつを返し、その子を見送りました。おじさんは、いろいろな町で仕事をしてきましたが、こんな気持ちのよいあいさつを経験したのは初めてでこのあいさつにととても感激したのです。

この子との元気な「おはよう」のあいさつで、おじさんは決意しました。「あいさつはすばらしい。自分もあの子に負けないあいさつをしよう。あいさつのすばらしさを多くの子どもたちに伝えよう。」

次の日から、おじさんは毎日、子どもが登校する時間と子どもが下校する時間に、局の前に立ち続けました。雨の日も、風の強い日も、お日様がじりじり照りつける日も凍りつくような寒い日も。お天気には関係ありませんでした。朝は、「おはよう」に「車に気をつけて」などの言葉を付け加えました。帰りには「おかえり」「さようなら」に「道草するなよ」などの言葉を付け加えました。雨で濡れている子どもがいると、かさを貸してあげることもありました。ただ、あいさつを交わすだけではなかったのです。

「おはよう」の輪は一人の子どもから、二人、三人

と広がり、小学生のみんなに広がっていきました。さらに、中学生や地域の人にも広がり、津吉の町には今まで以上にあいさつの声が飛び交うようになり、いっそう明るい町になりました。

おじさんは、いつも明るく元気にあいさつをする津吉の子どもたちが、ますます好きになり、もっと子どもたちを応援したいという気持ちになりました。運動会や卒業式などの学校行事や地域の行事には必ず出席をし、「がんばれ」「おめでとう」と温かく力強く励まし続けました。卒業生には、「卒業おめでとう」の心のこもった手紙も送りました。

おじさんは、三年後に長崎市へ転勤しました。津吉の町を去った後も、多くの子どもたちと文通を続け、就職した時や成人式の時には、手紙に記念品を添えてお祝いを伝え続けました。また、時間をつくって、その後も元気なあいさつを続けているか見に来ることもありました。変わらない「おはよう」「さようなら」の声を聞く

と安心して長崎へ帰っていきました。あの時の子どもたちも今は、お父さん、お母さんになっています。今はその子どもたちがあの時に負けない、明るく元気なあいさつを続け、教えを受け継いでいます。



おじさんは、今から14年前(本書が平成21年発行のため正確には26年前)、津吉の町のあいさつ運動がいつまでも続くようにと願いながら、73歳で亡くなりました。その後、お父さん、お母さん、地域の人たちは、おじさんの教えと感謝の気持ちを忘れないようにしようと記念碑を建てました。そこには、おじさんの思いが込められた「あいさつの三徳」の言葉が刻まれ、津吉小学校の校庭で、今も子どもたちを応援しています。

「あいさつの三徳」

あいさつには三つの徳がある

- 一 気持ちのよいあいさつは 相手の心を明るくする
- 二 気持ちのよいあいさつをする人は 誰からも好かれる
- 三 気持ちのよいあいさつをすれば 自分の心も豊かになる

おはようおじさん 角田 実



平成21年3月長崎県教育委員会発行
「長崎っ子に贈る50の話」より

このお話（表面）は実話です。まさに私が小学4年生の頃の話です。私は隣町に住んでいて、毎朝あいさつをする有名なおじさんがいるという噂を聞きつけ、わざわざ「おはようおじさん」に会いに行ったくらいでした。初めて会った時は、ニコニコ笑顔で接してくださり、噂通りの立派な人で、会いに来てよかったなと素直に思った記憶があります。私も卒業式・成人式と「おはようおじさん」に温かい手紙と記念品をいただいた子どもの一人です。感性豊かな時期に「おはようおじさん」と出逢ったことは、私の人生においても大きな心の財産となっています。

今年度1年間を通して、みなさんのあいさつはいかがでしたか。私は今年度の4月当初より「随分よくなった！上等になった！」と自信をもって言えます。でも、まだまだできる、まだまだ伸びる余地があると思ってしまいます。

新年度はさらに「さわやかで、気持ちのよいあいさつができる吉井中」「あいさつの輪を地域に広げていく吉井中」「あいさつ日本一」を目指したいものです。



ご退職・ご転出される方々から

山本範子先生

「イソップ寓話から得た教訓」



昨年10月、母が他界した折、幼い頃から母が話してくれ数々の「おはなし」を思い出しました。教職に就いて特に役に立ったのが「北風と太陽」「兎と亀」の二つです。強制的に思い通りにするのではなく、生徒が自ら『頑張ろう』という気持ちになるように考えました。「兎と亀」は私自身にも当てはまりました。成績優秀で優れた才能の持ち主を羨ましく思い、『どうせ自分はダメなんだ』とあきらめていました。実際、兎と亀がかけっこをすれば兎が勝ちます。お話の亀は兎に勝つことより、ゴールに到着することを目標にしました。一方、兎はゴールすることより、『亀に負けるはずがない』という気持ちで競争をしました。人生は他人と争うのではなく、自分との闘いだと教わりました。「誰かに嫌なことを言われたりされたりしたら仕返しをするのではなく、まず心身共に元気になり幸せになること」と教えてくれた人もいます。

若い時には理解できなかったことが、人生の後半になって、やっとわかってきました。身近な人が笑顔になれば自分が幸せな気持ちになれます。「情けは人の為ならず、自分の為である」中学生の皆さんには皆が元気で助け合って生きていける世の中を作りたいと思っています。山本先生作のイラスト→



山下喜代美先生

今年度の7月からの勤務だったので、8か月という1年足らずではありましたが、楽しく過ごすことができました。これも吉井中の生徒をはじめ保護者の皆さんのおかげだと感謝しています。来たばかりの頃は、わからないことがあって困っていると親切に教えてくれたり、問いかけにも気さくに答えてくれたりしたので学校にもすぐに慣れることができました。私は保体の授業を担当しましたが、熱心に取り組む生徒が多く、上達が早かったように思います。これからたくさん運動をして、生涯を健康に過ごせる知識を身につけてほしいと思います。今後の皆さんの活躍を楽しみにしています。



中原正博学校管理員



吉井中学校に4年間勤めさせていただきました。自然豊かな学校でとても居心地がよく、秋には土手一面に彼岸花が咲き、心が和みました。生徒たちはとても元気がよく、廊下ですれ違ったら大きな声で挨拶してくれました。またどこかで会った時には気軽に声をかけて下さい。今まで大変お世話になりました。

岩永明美嘱託調理士

皆さんが、吉井南小の低学年だった2年間、それから5年もの月日が流れて皆さんの成長した姿を見られた上にまた給食を作ることが出来て、本当に嬉しかったです。これからもしっかり給食を食べて、笑顔の絶えない楽しい中学校生活を送って下さい。

1年間お世話になりました。



今村稔希 ICT 支援員



約半年間、短い期間でしたが大変お世話になりました。4月からは、学校関係から離れることになり、とても寂しく思っています。国のGIGAスクール構想を受け、佐世保でもスマート・スクール・SASEBOがスタートします。これからという時にお力になれず、申し訳なく思うとともに、今後の吉井中学校のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

石井直輝学習支援ボランティア

半年間という短い期間でありましたが大変お世話になりました！生徒の皆さんは、私たちのサポートで、授業が少しでも分かるようになりましたか？そうであってくれることを願います。

私は、この実習を通して学校運営や知識など多くのことを学ぶとともに、吉井中学校の明るさや元気さ、先生と生徒との良好な関係などにも触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。これから楽しいこと、苦しいこともあると思いますが、最後によかったと思える吉井中ライフを過ごしてください！



